

横須賀日日新聞 第54号
2016年9月4日

あなたが地域の主人公 17

テーマ：熊本の避難所で
(時間とともに変わる支援)

※許可を得て掲載しています。

あなたが地域の主人公 17

7月11日から17日まで熊本地震のボランティア活動に行ってきた。熊本県益城町の避難所・総合体育館です。ここは熊本YMCAが指定管理者として運営していましたが、震災後そのまま避難者の受け入れ場所となり、職員は自らも被災者でありながら懸命の避難所運営を行っていました。

熊本の避難所で

時間とともに変わる支援

神奈川のYMCA（横浜YMCAグループ）からは4月18日から1週間交代、2人ずつが支援に入りました。私は第16期。11日早朝の飛行機で羽田を立ち熊本空港へ、タクシーで15分ほどで益城町体育館です。私の担当は「ボランティアの受け入れ担当」でした。典型的なある日の1日を紹介します。

5時45分Ⅱ起床▽6時Ⅱごみ回収▽7時Ⅱ朝食配給▽8時半Ⅱ9時半Ⅱ食後ごみ回収、施設内換気、ラジ

才体操開始の放送、居住者に清掃のお願い放送、居住区域の見回り▽9時半Ⅱボランティア受け入れ（1日8人Ⅱ40人にルールを説明し担当部署に引き渡す）▽10時Ⅱ慰問団体受け入れ（1日3Ⅱ5団体）▽10時

半Ⅱ衛生活動▽11時半Ⅱ昼食配食▽12時半Ⅱ休憩・食事▽13時半Ⅱ夕食搬入（トラックⅡ冷蔵庫）▽14時Ⅱコロッケさん慰問対応（ミニコンサート）※その他突然やって来る慰問対応（綾小路きみまろさん、ジャ



避難所になっている益城町総合体育館。前面の駐車場は波打っていた

ニーズのどなたか、プロレスラー、サッカー選手等）▽15時Ⅱボランティア作業終了▽15時半Ⅱ翌日以降のボランティア受け入れの調整（社協・ボランティアセンター）▽17時Ⅱ全体会議▽17時半Ⅱ夕食配給、ごみ回収、洗濯、休憩・食事▽20時半Ⅱ入浴▽22時Ⅱごみ回収▽22時半Ⅱメール処理他▽23時Ⅱ就寝（施設内会議室に宿泊）

最初の数週間は野戦病院のようだったそうです。その後、避難所内の区分けが進み、制度が整っていききました。

私が入った7月中旬は一つの転換期でした。それまで10数班に分かれた役割は、それぞれ全国のYMCAや近隣の行政からの支援担当が継続性をもってリーダー役を担っていました。例えば「渉外」担当は大阪YMCA、「食事」担当は広島YMCA、横浜YMCAは「ボランティア受け入れ」と「衛生」などです。

この時期、支援体制が次々と終了し、7月1日採

用の期限付き職員を熊本YMCAが採用し、それぞれリーダー役に付きました。これも復興の一つの過程ですが、熊本YMCA職員にとっては、新人の研修も含めて負担が増えることでもあります。

当初は1500人いた避難者は、私が行ったときは800人。ちょうど2回目の仮設住宅当選者の発表があり、一喜一憂がありました。まだまだ復興まで時間がかかります。引き続き支援に関わっていききたいと思っています。

（横須賀市立市民活動サポートセンター館長・高橋 亮）